

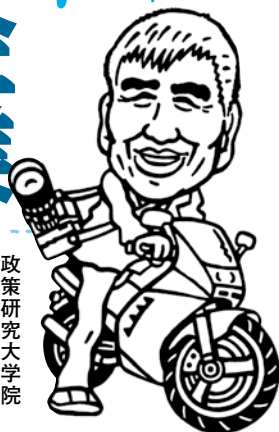
ハシモト

教授の

あっぱれ

中小企業

政策研究大学院  
大学名誉教授  
橋本久義



日本の中小企業の技術力は世界中に知れ渡っているが、当の社長さんたちは、海外との取引には消極的だ。最大の問題は英語力だろう。私の知り合いの社長さんも、英語の手紙は封も切らずにゴミ箱に入れてしまう。

そうしたなか、三十年ほど前から、「大田で英語で交渉のできる社長っていやあ、そら南武の野村社長だあな」と誰からも

認められていたのが、(株)南武の現会長、野村和史さんだ。

日本で最初の  
油圧シリンダーメーカー

南武の創業者の野村三郎氏は一九一〇年生まれ。工業学校卒業後、当時の三菱航空機で戦車の部品を設計し、三四年、陸王内燃機に移って、側車付き軍用

# 町工場らしい親密な一体感残し 国際化進めるGNT企業

(株)南武 野村和史会長・伯英社長



野村和史会長と伯英社長

オートバイの設計に従事した。その後、四一年に川崎で軍需部品メーカーの野村精機を設立したが、終戦とともに休止。手探りの時期を経て、五五年、日本初の油圧シリンダーメーカー南武鉄工(株)として再発足した。重工業機械メーカーを得意先に、経営は順調だった。ところが、六三年に工場から失火して全焼、経営中断を余儀なくされた。

二年後の六五年に、(株)南武鉄工として再出発できた。この時から脱下請を目指す。金型用の油圧シリンダーを独自に開発し、多品種少量生産に応えたことで、自動車エンジン用を中心にシェアを伸ばしていった。九〇年には現在の(株)南武に改名した。

「この時が当社にとつて、一番苦しかった時期かもしれせん」と和史会長は言う。

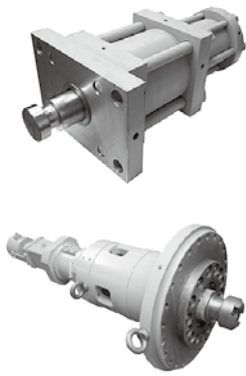
日英中国語が飛び交う社内

南武は、業界でいち早く海外に生産拠点を設けた。

二〇〇一年にアメリカに進出し、地元企業と技術供与の契

約を結び、営業とメンテナンスの拠点を構えた。さらに、〇二年にはタイに「ナンブシルタイランド」を設立し、海外での本格的な生産拠点を設けた。〇六年には、大田区とタイのAMAT社が協力して設立した「オタ・テクノ・パーク」に工場を移し、生産とともに東南アジア各国やインドへの輸出拠点としても大きく発展させた。中国への進出は一〇年。生産工場として順調に稼働している。さらに二二年には、タイに六四〇〇平方メートルの敷地を確保し、新工場を本格稼働。中国現地法人の南武油缸（常州）有限公司も一四年、工場を拡張移転した。目下、インドにおける拠点設立の可能性を調査中という。

タイの現地責任者は、本社の



往復時間を短縮する「QCS型シリンダー」(上)と「ロータリージョイント」(下)

国内営業部員から三十四歳でタイ工場の社長に就任し、現在四年目。中国工場の責任者も四十代で赴任、もともと本社の設計部門に所属し、日本に帰化した元中国人。やる気のある若い社員を信頼し、思い切った権限を移譲して任せる方針を実践している。一方、本社では中国など海外の優秀な人材を活用している。社内では英語や中国語が飛び交うインターナショナルな雰囲気だ。さらに二十年ほど前から英国人講師を招いて定時後に社内英会話教室を開催。希望者は無料で参加できる。

「われわれはシリンダーやジョイントなどの分野のニッチ・トップ企業を目指してきました。また自動車産業の海外進出により、早期から海外での生産・販売活動を推し進めてきました。高い技術力を開発・保持するためにも、日本人スタッフを国際化し、海外人材を活用していくためにも、国際化を推し進めていきます」と力強く語るのは野村伯英さん。和史さんの息子で、一三年に三代目社長に就任した。

同氏は、一九九六年工學院大学工学部卒。大手ハウスメーカーに五年ほど勤務した後、南武に入社。〇五年からタイ法人に派遣され、新工場を軌道に乗せた。海外法人との相乗効果を一層浸透させるべく、海外展開を加速させる考えだという。

## ハードを核にした ソリューションにも進出

二〇一四年には経済産業省により「グローバルニッチトップ企業100選」に認定された。

グローバル企業ではあるが、町工場らしい親密な雰囲気がある。社員全員が集まって朝礼を行うことで、他部門のことも分かるし、連帯感・一体感が醸成される。通常の伝達事項のほか、当番社員が五分程度のスピーチを行っているが、これがリーダーシップ教育には最適という。一五年五月、旧本社工場周辺の宅地化の進展等から、本社を大田区から、横浜市金沢区福浦の工業団地に全面移転した。空調が整い、見学通路も設けられたすばらしい建物だ。新築の香

りが残る本社工場には国内外から、政治家、行政の担当者、工場経営者、技術者、学校関係者など見学者がひっきりなしに訪れている。これも、会長・社長の人脈の広さの表れだろう。社員は来訪者に大きな声で挨拶し、表情も明るい。

「開発拠点かつ生産性追求拠点として、あるいはグローバル化の司令塔として、社員のベクトルを合わせることでより強力に推進できる環境となりまして」と伯英社長は言う。

さらに同社では「ハードを核にしたサービス業」との方針を掲げ、四年前に開発した製造案件の可視化ソフトCast Viewerを用いた、製造不良低減のソリューションサービスの提供を始めた。北米製鉄市場のローカル製老朽設備の置き換え需要を狙い、現地展示会に出展したりと、新たな活動も打ち出している。

### ●株南武

横浜市金沢区福浦2-8-16

☎045-791-6161

<http://www.nambu-cyl.co.jp/>